

2020年3月期第2四半期決算説明会 主なQ & A

[台風19号]

Q： 北陸新幹線車両の被害状況、今後の運転計画は。

A： 現在、車両への損害の範囲を調査中である。廃車とするのか、部品を再利用するのか等は詳細な調査が完了次第判断する。仮に廃車となれば特別損失としての計上となる見通しである。運転計画は、10月25日より北陸新幹線の列車本数を約8割、東京～金沢間の直通列車を約9割確保する暫定のダイヤで運転を再開している。今後も、投入できる車両数や運用の調整を続け、輸送力の確保に努めていく。

Q： 保険は適用できるのか。

A： 線路設備、停車場設備、電路設備、諸構築物について土木構造物保険に加入している。被害額は算定中であり、かつ、保険会社との協議も踏まえた上ではあるが、一定程度はこの土木構造物保険でカバーできるのではないかと考えている。また、浸水した新幹線車両については、事故による車両損傷などに対応した保険には加入しているが、保険でまかなわれる額は極めて少額である。適用の可否は、今後保険会社との協議を進めていくこととなる。

[営業費用]

Q： 人件費＋業務委託費は減少する計画ではなかったのか。

A： 人件費は社員数の減により減少する見込みではあるものの、エルダー社員数の増加などによりそのペースは鈍化する。2023年度までは人件費は減少となると推定しているが、それ以降は増加に転じる見通しである。一方で、業務委託費は駅業務や警備委託等、部外委託の増により増加傾向が続く。このうち、警備委託は、2020年度に警備費全体が150億円を超える見込みであり、うち1/3程度は東京2020大会関連の警備である。人件費の減少よりも業務委託費の増加が上回ることから、人件費＋業務委託費は増加傾向が続く見通しである。イノベーション投資の効果をあげていくことで生産性向上に取り組んでいく。

Q： 修繕費の今後の見通しは。

A： 修繕費は変革2027策定時において3,000億円程度でコントロールするとの考えのもとで、数値計画を策定した。災害が無い前提での策定であるが、現時点でも基本的な考え方自体は変わっていない。

以上